

特別支援学級 5年理科 流れる水のはたらき

番組名 「5年理科ふしぎがいっぱい」

放送回 第10回「川は流れて…」

理科の学習内容について、驚きや感動や疑問を抱きながら学ぶことができます。実験や観察のクリップも充実しています。

実践者 川崎市立下布田小学校 教諭 藤田 陽子

番組の使い方

活用のねらい

この回では、登場人物(ほなちゃん)が川下り体験をする映像を通して上流から下流までの変化の様子を映像で伝えている。

番組を視聴することで、実際に見ることが難しい川の上流、中流、下流の様子を視覚的にとらえることができる。

具体的な手立て

- Google mapで学校近くの川の様子を見る～授業導入時
 - 番組すべてを視聴(10分間)
 - 授業のまとめをクリップ活用で行う
「川の曲がったところ」「川の石の大きさと形」「土地を削る川」のクリップ動画を活用した。
- Google mapで身近な川の上流の様子を確認し、関心が高まったところで番組を視聴。感想交流の後にはクリップで再度内容を押さえ、知識の定着をはかった。

授業の概要(1/4時間)

本時の目標

- 川の上、中、下流では水の流れや石の形や大きさに違いがあることを知る。

Google mapで近くを流れている多摩川を見る(10分)
•身近な川「多摩川」の学校付近の様子、上流の様子を確認する。

番組視聴(10分)

- 川の上、中、下流の様子、水の流れをつかむ。
- 川の上、中、下流の石の様子を知る。

番組をみてわかったことをかく(5分)

- 画用紙に個々に自由記述。

感想交流(10分)

- 番組を見てわかったことや驚いたことを画用紙に描きながら交流する。

まとめ(10分)

- クリップを見て、感想にあった内容を確認しあう。

生き生きと学ぶ子どもの姿

学習内容が自分の生活と繋がった

身近な川(中流)と身近ではなかった部分(上流)が繋がった。流速の変化や石の大きさの変化を知り、その様子をうれしそうに絵で表現した。

番組活用が問題解決学習へ誘う

川の流れが自然災害を起こすことに興味をもち、どのような災害が起こるのかといった問題を見いだしていた。

感動をともなった理解

ホナちゃんがカヌーで川を下る様子を見て「危ない!」と声をあげながら視聴。川の流れの速さや岩や石の大きさの変化に気づいた。

指導を終えて

視聴前、何を見てよいかわからない、何を考えてよいかわからないという児童たちが、視聴後は、観察する視点、考える視点が定まった。番組を見ることで、普段何気なく見ていた川の上流は流れが急だったり石が大きかったりすることを知ってどの子も驚き、それを伝えたいという思いが生まれた。

